

Day 1

タイトル 2. 開会の辞

発表者 モロッコ国内務省 大臣 Abdelouafi Laftit  
モロッコ国エネルギー・鉱物持続開発省 大臣 Aziz Rabbah  
モロッコ外務国際協力大臣付閣外大臣 Mounia Boucetta  
日本国環境省 副大臣 伊藤忠彦

内務大臣は、イベント主催者に感謝しつつ、この会合の意義を強調し、国王陛下によって表明されたアフリカ大陸への多大な利益への貢献を強化するというモロッコの決意を表明した。モロッコは、経済発展と環境保全を調和させる持続可能な発展政策を採択しており、内務省と持続開発庁は共同で国家廃棄物プログラム(PNDM)を立ち上げている。この年次会合は、優良事例を共有し、アフリカ大陸の状況に適応可能な解決策を提案する機会となると言及した。さらにモロッコはアフリカ諸国と知見と経験を共有する努力を惜しまないと述べた。

エネルギー・鉱物持続開発省大臣は、環境と持続可能な開発のための国家憲章、およびその行動計画を作成するよう政府に要請した国王陛下の支持の下、モロッコが持続可能な開発に積極的に取り組み、新たな発展モデルを作ったと述べた。また2030年までに、新しい開発モデルとして、グリーンで包括的な経済への移行を実現する持続可能な開発戦略(NSSD)が策定されており、モロッコは法規制の枠組みを強化し、社会および環境に密接した家庭系廃棄物のリサイクルを推進することにより、気候変動に取組み、国内と大陸の両方においてパリ条約の実施を加速したいと述べた。アフリカのきれいな街プラットフォーム(ACCP)は、廃棄物管理の技術と知見を共有し、交換するための絶好の機会となると述べた。

要約

外務国際協力省大臣は、持続可能な都市は、SDGs達成に貢献するための場を提供することができるとし、ACCPは知見の共有や研修を通じ、JICAとの協力の枠組みの中で廃棄物問題の解決を図るためのイニシアチブになると述べた。今後は、それらを運用し、モニター・評価していく必要があり、我々の特殊性、法的枠組み、ガバナンスに副った財務体制を整備することも不可欠であると述べた。さらに、プラットフォームを活性化するには、廃棄物問題に革新的な解決策をもたらすために、研究開発に大学等と関与させる必要があるとも指摘した。

伊藤環境副大臣は、参加者に感謝の意を表明した後、2050年に98億人に達する世界人口の増加が、過度の消費と限られた資源の間に不均衡を引き起こす恐れのあること、また気候変動が激化し、未処理の廃棄物が蓄積し続けていることなどを指摘し、一刻も早くアクションを起こすことが急務であると促した。またアフリカは発展し続けているため、日本の技術と経験を利用して廃棄物問題を解決し、持続可能な開発を行うことによって、日本が経験してきたような困難な状況を避けなければならないと示唆した。プラットフォームは、廃棄物管理に関する知識と有用なデータを収集、整理、共有するもので、我々のアクションを支える強力なツールとなるとし、各国が適切な廃棄物管理を推進し継続できるよう、日本政府は協力を惜しまないと述べた。